

古墳時代の 人々の生活。

～古墳時代の平均寿命から読み取れる、被葬者の一生～



1. きっかけ

古墳は築造するのに、かなりの人手、そして時間がかかると耳にしたことがある。それについて私は、次のような疑問を持った。

「なぜ時間をかけても古墳を造りたかったのか。」

「そんな古墳を造った被葬者はどんな一生を送ったのか。」

そこで、私は太田市内にある塚廻古墳群4号墳と太田天神山古墳に焦点を当てて、古墳時代の平均寿命を元に「被葬者の一生」について調べることにした。

2. 疑問

- ◎ なぜ被葬者は、多くの時間や人手をかけても古墳を造りたかったのか (①)
- ◎ そんな古墳を造ったのはどんな人で、どのような一生を送ったのか (②)

3. 調査

今回、最初に調べたのは、「古墳の意味・重要性」である。

その理由は、古墳の意味や重要性を調べたら、①の問題である、被葬者が多くの時間や人手に加えてお金がかかる古墳を造ろうと思ったのが見えてくると思ったからだ。例えば、太田天神山古墳は1日に1000人の労働者に太田天神山古墳の土を盛らせると112日かかるとされている。それに加え、二重の周掘（内堀・外堀）を掘る、古墳に盛る土を運ぶ、墳丘表面に敷き詰めた葺石の運搬、埴輪の作成と陳列など他にも古墳を作るのに必要な作業は沢山ある。以上から、私達が思っていたよりも多くの時間や費用、人手が必要なことが分かる。



右上の資料は「日本の古墳の分布図」だが、近畿地方を中心に多くの古墳が広がっていると分かる。実際は、消滅したものも含め、総数159636基もの古墳があるということから、古墳時代の権力者たちがどれほどいて、どれほど入れ替わったかが分かるだろう。それでは本題に入って、なぜ古墳時代の権力者たちは古墳を作ることに執着したのか。それについて次のような記事を見つけた。

今から1700年ほど前、3世紀の終わりから7世紀にかけて盛（さか）んに作られた古墳（こふん）。その地域（ちいき）を支配していた王や豪族（ごうぞく）が死んだ後も自分の力を示すために、墓としてつくらせたものです。全国に広く分布しています。

このような目的によって権力者たちは次々と古墳を作っていたという。確かに、墓なら壊されるリスクも少ないし、どのような身分の人でも目にすることができるのでいい発想だと思う。

次に調べたのは「**被葬者の一生**」である。

上記から分かったのは

- ・古墳は権力者の大きな墓
- ・古墳はその権力者の力の象徴にも繋がっている
- ・その力を自身の死後でも示し続けるために古墳を作った

ということである。

中点（・）1つ目である「古墳は権力者の大きな墓」についてもう少し調べてみると、

ヤマト王権一族や地域有力者から無名の中流階級まで、北海道から九州に至るまで、多くの人が古墳を築いています。

——古墳とは？ その数コンビニの3倍！古墳を観光する前に知ってほしい
あれこれを解説 | 和楽web日本文化の入り口マガジン

ということが載っていた。つまり、古墳を造ったのは、ヤマト王権の一族などの権力者たちであり、その数はごまんということだ。1ページに載っている「日本の古墳の分布図」からも読み取れる。しかし、これだけではまだその“権力者”がたとえばどのような人物なのか、古墳を造るのにはなにか条件があるのかなどが分からない。そこで、KADOKAWA株式会社が出版している角川まんが学習シリーズ「日本の歴史」で古墳時代にあたる1巻と2巻を参考にして分かったことをまとめてみた。



〈古墳についてもう少し詳しく！〉

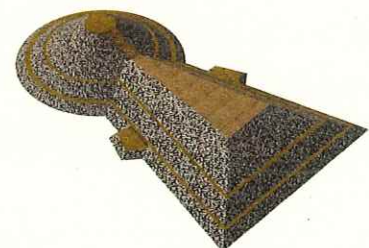
- ①古墳は大きければ大きいほどその力が強い証
- ②「方墳」(図1)や「円墳」(図2)「前方後円墳」(図3)など種類がある



(図1)



(図2)



(図3)



③全国の大きさ順古墳ランキング

から読み取れること (←右資料)

- ☆近畿地方には大きな古墳が集中している⇒大和朝廷の力が強かった
- ☆全国各地に古墳を作れるほどの豪族がいた
- ☆地方のも前方後円墳⇒大和朝廷の影響力が及んだことを示す
- ☆特に奈良・大阪に大きな古墳が多い

——1巻 第4章 古墳作りと大和の大王 より要約 (①は引用)

《コラム》 古墳の作り方




木や草を刈って地面を平らにする	外側を掘り掘った土を墳丘に盛る	墓石を葺いたり埴輪を並べたりする	埋葬施設を造り埋葬して石室を閉じる	完成!

——古墳の謎7 古墳はどうやって造るの? 堺市 より要約 (文)

——1巻 第4章 古墳作りと大和の大王 のイラスト より (写真)

《権力者とは例えば誰?》

古墳名	築造期間	被葬者	古墳の形	写真
太田天神山古墳 (男体山古墳)	5世紀前半～中世期頃 (第Ⅱ四半世紀)	不明 (豊城入彦命 卜埴埴 ヒノミトの後裔説がある)	前方後円墳	

塚廻古墳群4号墳	6世紀前半	不明	帆立貝形古墳	
女体山古墳	5世紀前半	不明 (太田天神山古墳の被葬者と密接な関連があるとされる)	帆立貝形古墳 (造出付き円墳)	
大室古墳群 ※ 4基の古墳を1つとして考える	6世紀初頭～6世紀後半	前二子：豊城入彦命 中二子：不明 後二子：6人程 女性 小二子：不明 (後二子の被葬者と密接な関係があるとされる)	前方後円墳	↓ 写真は小二子 

このように、群馬県にある古墳についての情報を表にまとめてみたが、被葬者は未だに不明なものが多い。実際、この表には載っていないが朝小塚古墳や紫雲塚古墳なども被葬者は明らかになっていないという。しかし、群馬県の古墳のうち、幾つかが『豊城入彦命』という人物と関係がありそうだと分かった。『豊城入彦命』は、日本の皇族で、第10代崇神天皇皇子だそう。東国（今でいう東日本）の治定にあたったとされて上毛野君や下毛野君（皇別氏族）の始祖とされている。天皇の息子ということなので身分が高かったことには間違いなさそう。

先程、「古墳を作るには何か条件があるのか」と述べたが、被葬者が女性の場合があったことも見て、古墳を作れるだけの権力があれば誰でも古墳を作ってもよかったのではないかと推測する。例外として、角川まんが学習シリーズ「日本の歴史」2巻には天皇の古墳と普通の人の古墳を区別する呼び名として、天皇の古墳を「陵（みささぎ）」と読んでいと書かれている。

さて、ここでこの研究のサブテーマである「古墳時代の平均寿命から読み取れる、被葬者の一生」について詳しく見ていきたいと思う。

古墳時代の平均寿命は14.6歳だったとされている。しかし、これは「0歳児における余命寿命」で、生まれたての子供があと平均で何年生きるかを表したものだということに注意が必要だ。古墳時代は、15歳までに死亡する率、特に乳幼児の死亡率が非常に高く、したがって平均寿命が短くなってしまふ。つまり、右の資料から分かる通り、15歳くらいまでの子供時代を生きられれば、15歳を超えた人の平均寿命である30歳くらいまで生きられる可能性が高いということだ。ちなみに、古墳時代でも、女性の方が平均寿命が4年ほど長かったという。

日本人の寿命

縄文時代	31歳	
弥生時代	30歳	
古墳時代	31歳	
室町時代	33歳	
江戸時代	45歳	
	男性	女性
明治24～31年	42.8	44.3
大正15年～昭和5年	44.8	46.5
昭和10～11年	46.9	49.6
昭和22年	50.1	54.0
平成10年	77.2	84.0

豊城入彦命は男性で、約20年生きたので、当時の平均寿命よりは短かったと分かる。そして、豊城入彦命の古墳と推定される前二子古墳は、太田天神山古墳の約半分の体積とすると、1日に1000人の労働者に56日間土を盛らせると、墳丘ができるという計算になる。よって、墳丘を盛る以外の作業も合わせたら、計画から完成まで1年は軽く超えるだろう。これはあくまで私の予想に過ぎないが、死ぬ1年前から、豊城入彦命にとっては20分の1の人生の期間をかけて（令和時代、人生が100年と考えると5年かけて）自分の古墳を作ったとなるからかなりのものを犠牲として古墳作りに費やすだろう。つまり、もし、権力者が急死してしまって古墳を作るとなったら、埋葬するのに時間がかかるということだ。

また、日本最大の前方後円墳である「大仙古墳」は1日最大で2000人の人々が働いても15年以上かかったという。そして、被葬者である仁徳天皇は古事記によると83歳で死没したとのこと（日本書紀では143歳と記録されている）なので68歳の頃から古墳を作っていたことになる。

これは、私個人の感想になってしまうが、自分が死ぬ前から自分の墓を作られるのは、あまりいい気がしない。しかし、古墳時代などの昔の権力者たちにとってはそれが普通だったから、時代によって人々の感覚・慣習が変化していることが実感できる。

4.まとめ

☆古墳は被葬者の力を後世まで示し続けるために作られた。

☆近畿地方を中心に広く分布していて日本全土では約16万の古墳がある。

☆群馬県にある古墳のいくつかは豊城入彦命と関係がありそう。

☆古墳は作るのに年単位でかかる。

☆古墳時代の平均寿命が30歳くらいだったと考えると古墳作りは一生の十数%をしめていた

5.感想

この研究で、古墳についてよく知ることができた。古墳大国とも言える群馬県のことにも必然的に知ることができ、群馬県がさらに好きになったと思う。軽い気持ちで始めたこの研究だが、調べていくうちに様々な発見があり、今では大きなものとなった。元々、歴史は好きな私だったが、古墳時代はあまり興味がなく、逆に平安時代末期や戦国時代に目があつた。しかし、その考えが覆される程に「古墳」の魅力が私に伝わってきた。特に、古墳時代の平均寿命については、また新たに「大仙古墳の被葬者である仁徳天皇は日本書紀で143歳まで生きたとされるが、それは本当なのか」ということについても調べてみたい。また、今回は時間やコロナの関係で、塚廻古墳群第4号墳にしか行けなかったのが、大室古墳群にも行ってみたい。自分たちの身近に思ったよりも多くの古墳があると知り、今でも驚いているが、「身近にある」からこそあまり知らなかったのかもしれない。もし、大学や就職などの関係で、県外に行くことになり、他県の人から「群馬にある〇〇古墳って何なの？」「群馬の△△古墳って誰の古墳？」と言われても堂々と答えられる、そんな立派な大人になりたい。そのためにはまず、少しずついいから「古墳」について知っていく必要があると思う。

参考文献

《サイト》

- ・ 日本文化の入り口マガジン 和樂web
<https://intojapanwaraku.com/travel/57870/>
- ・ 大泉町OIZUMI TOWN
<https://www.town.oizumi.gunma.jp/s032/qa/010/20200725000346.html>
- ・ 堺市SAKAI CITY
<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/rekishi/dkofun/nazo/kofundukuri.html#:~:text=%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E3%82%92%E9%80%A0%E3%82%8B%E3%81%9F%E3%82%81%E3%81%AB.%E6%BF%A0%20%E3%81%BB%E3%82%8A%20%E3%81%AB%E3%81%AA%E3%82%8A%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>
- ・ 太田市City of Ota's Official Web Site
<https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-009kyoiku-bunka/bunkazai/otabunka47.html>
- ・ 心にググッと群馬県
<https://www.pref.gunma.jp/03/x4500021.html>
- ・ 前二子古墳 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%89%8D%E4%BA%8C%E5%AD%90%E5%8F%A4%E5%A2%B3>
- ・ 小二子古墳 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E4%BA%8C%E5%AD%90%E5%8F%A4%E5%A2%B3>
- ・ 後二子古墳 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%8C%E4%BA%8C%E5%AD%90%E5%8F%A4%E5%A2%B3>
- ・ 中二子古墳 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E4%BA%8C%E5%AD%90%E5%8F%A4%E5%A2%B3>
- ・ 古墳にコーフン協会
<https://kofun.jp/diary/20160303>
- ・ 令和2年度 東国文化自由研究 受賞作品
<https://www.pref.gunma.jp/contents/100181579.pdf>
- ・ 古墳時代 NHK for school
https://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=D0005310012_00000
- ・ 豊城入彦命 Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B1%8A%E5%9F%8E%E5%85%A5%E5%BD%A6%E5%91%BD>
- ・ 平均寿命と平均死亡年齢
<http://the118.com/blog/1488#:~:text=%E3%81%9D%E3%81%AE%E5%BE%8C%E3%81%AE%E5%BC%A5%E7%94%9F%E6%99%82%E4%BB%A3%E3%80%81%E5%8F%A4%E5%A2%B3,%E3%81%A8%E8%A8%80%E3%82%8F%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>
- ・ 豊城入彦命 Copyright 2011
<https://rekichi.net/s/62258116>
- ・ おたくま経済新聞
<https://otakei.otakuma.net/archives/2016031503.html>

《文献》

- ・ 角川まんが学習シリーズ「日本の歴史」 1巻&2巻

《施設》

- ・ 太田市龍舞町 塚廻古墳群第4号墳